

1. AI医療機器のさらなる広がり

2) 医療AIプラットフォーム

第3期試行運用の概要

八田 泰秀 医療AIプラットフォーム技術研究組合

SIP第2期におけるHAIPの役割

近年、急速に高度化・細分化が進む医療分野において、医療従事者の過度な負担増加や、高齢化に伴う人材不足、地域偏在化といった課題に対応していくためには、医療分野におけるAI技術(医療AI)の活用および普及・発展が必要不可欠である。

医療AIプラットフォーム技術研究組合(略称HAIP)は、2018年に内閣府戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第2期「AI(人工知能)ホスピタルによる高度診断・治療システム」にて、医療従事者の負荷軽減と高度な医療の実現をめざし、医療AIの普及に向けた課題

解決を担うための「医療AIプラットフォーム(医療AIPF)」の研究・開発を行うタスクフォースとして立ち上がり、研究・開発を継続する中で、2021年4月1日に、技術研究組合法に基づき、厚生労働大臣および経済産業大臣の認可を得て、法人として設立されたものである。HAIPでは、医療にかかわる多くの企業、アカデミアなどが集い、個々の企業だけでは対応し得ない医療AIの普及・発展に向けた課題解決をめざし、業界共通の基盤として医療AIPFの研究・開発を実施している。

医療AIPFの概要

HAIPが研究開発をしている医療AIPFは、多くの臨床情報や健診情報

などのリアルワールドデータを活用して医療AIサービスのモデリング支援や医療AIサービスの開発を可能にする「AI開発基盤」、複数の専門家によるAI評価を支援する「ラボ基盤」、そして、医療AIサービスを実装するためのさまざまな機能を備えた「サービス事業基盤」の3つの基盤から構成される。特にサービス事業基盤は、医療AIサービスを提供するカタログサイトや医療AIサービスのコンテナ搭載、さまざまなデータ連携を可能にするオーケストレーション機能などを有している。これらの基盤が統合したプラットフォームとして機能することで、医療AIの開発～評価～実装までを一気通貫で担うことができる医療AIPFと成ることを構想している(図1)。

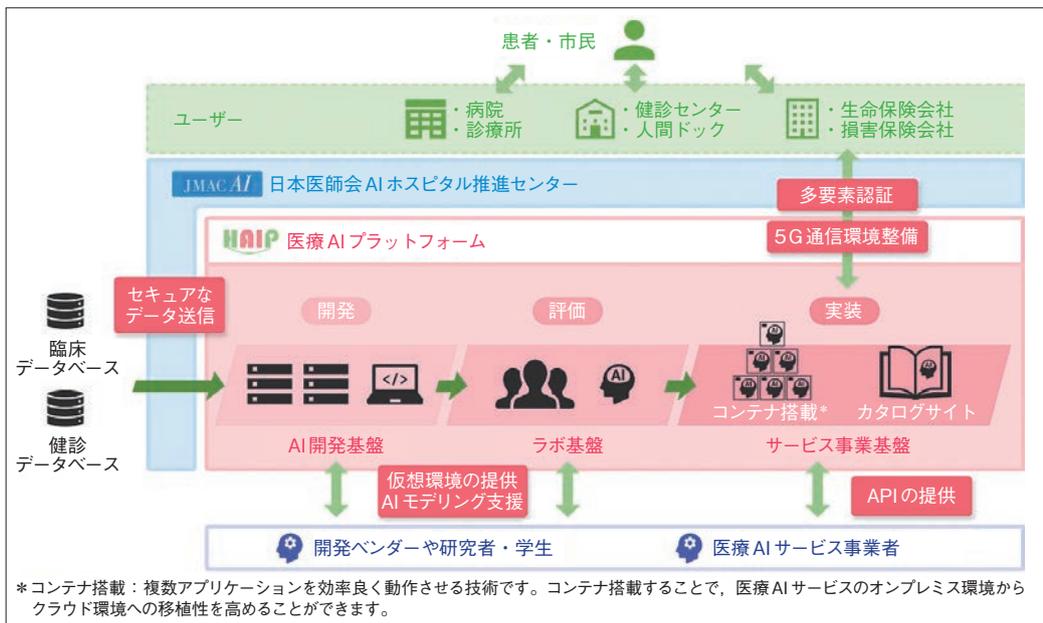


図1 医療AIPF構想